

離れて繋がって



01 団地で家族と暮らす

家族と暮らすとき、自分一人だけのスペースがあることで、周りを気にすることなく好きなことに集中できる。一方、誰かがいることで安心感や落ち着きを感じることもある。

到津南団地は、家族がそれぞれの自室を持つための十分な広さがなく、気を使いながら一緒の空間で過ごさなければならないように感じる。

そこで、空間を広く取りながらも区切られたスペースを設けることで、それぞれが思うままに過ごすことができる住まいを提案する。

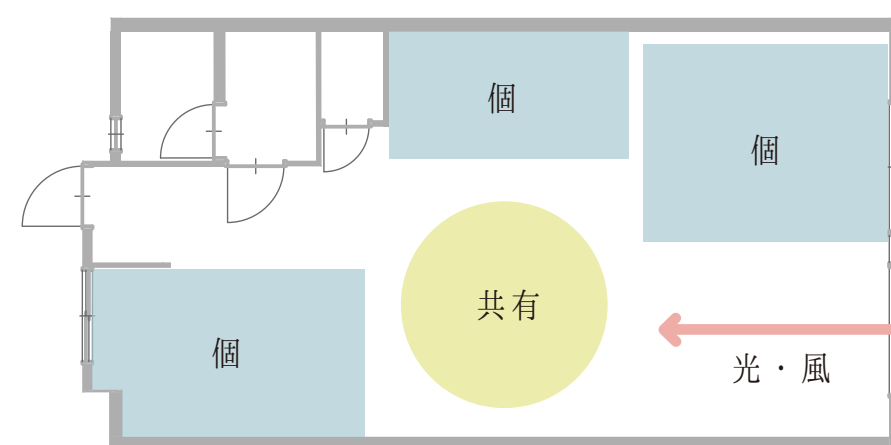
02 提案

空間の区切りとして、「間仕切り棚」を活用する。間仕切り棚は、壁のように天井に繋がっておらず、背面板のないものであるため、光や風とともに家族の気配を感じることができる。また、本や衣服、収納ボックスなどを納めていくことで棚の空間が埋まり、目線を遮ることができる。

03 個と共有

空間を有効活用するために、「個の活動」と「共有の活動」について考えた。睡眠や休憩、考え事などは、周りの目を気にせずリラックスしながら行う必要があるため、個の活動とした。勉強や仕事、家事などは、他者がいる緊張感から作業が捗るため、共有の活動とした。

共有を中心とし個を分散させることで、それぞれが思うままにくつろぎながらも、家族のにぎわいが暮らしの真ん中にあるような空間構成とした。また、共有に光や風を取り込み、それを個にも広げるようにした。



04 平面計画

